

## 【矢巾町】 校務DX計画

### 1 現状

本町では、現在校務支援システムがオンプレミスで運用されているが、令和8年4月から県統一統合型校務支援システム導入予定であり、各小中学校教員の校務の効率化や負担軽減に取り組むところである。また、令和7年3月から教育委員会に校務用ネットワークを構築することによって、教育委員会と学校間での円滑な文書共有を図っていく。

しかしながら「GIGAスクール構想のもとでの校務DX化チェックリスト」自己点検結果では、押印を要しない文書への慣例的押印やFAXの使用など校務DXが進んでいない部分もある。

この状況を受け、教育委員会としては校務DXに向けて次の事項に取り組んでいく。

### 2 FAX・押印等の制度・慣行の見直し

#### (1) 現状及び課題

自己点検の結果から、対象の6校全てでFAXを利用している。また、押印・署名が必要な書類が多くある。

#### (2) 解決策

災害時や学校のネットワーク不調等によりFAXが効果的な場合を除き、原則廃止に向けて、関係機関及び学校とやりとりのある事業者に対し、教育委員会から慣行の見直しの依頼をする等働きかけを行っていく。

また、教育委員会内で押印を求めている業務や書類の有無と見直しの可否、見直しができない場合の理由について現状把握を行い、機微な情報を取り扱う場合を除き、公印省略で取り扱うなど押印ルールの見直しを図っていく。

### 3 クラウド環境を活用した校務DXの積極的な推進

#### (1) 現状及び課題

校務系ネットワークは町内学校間でのやりとりはできるが、教育委員会には構築されていないため、学校と教育委員会間でのやりとりは、校内の文書発出口教員からのメール等の添付で共有をしている状況。

また、校内の会議や情報共有、周知においてもデータ化されている学校は少なく、校務DXに対して抵抗感が見受けられる。

#### (2) 解決策

令和7年3月に教育委員会へ校務用ネットワークを構築し、円滑にデータ共有ができるよう整備を進める。

また、町内の教員へGoogle for Education主催の校務活用研修の機会を設け、ICT活用による業務省力化や利便性向上を図る。

#### (3) 校務支援システムへの名簿情報と次世代校務支援システムの検討

現状では、教育委員会から名簿情報を学校へ送付しているが、保護者の勤務先等は含まれていないため、手入力している状況である。次世代校務支援システム導入

に向けた取り組みの1つとして導入するクラウド型の県統一校務支援システムを令和8年度から運用開始するため、名簿情報の入力方法等の運用について、令和8年度から検討する。